

●パブリックコメント集計結果一覧表

対象事案の名称:小美玉市まちづくり構想基本計画(案) 空のえき「そ・ら・ら」の拡張に係る計画について

1. 意見提出者数 6人

提出方法	人数
郵送	0
ファクシミリ	0
電子メール	0
電子申請	5
直接持参	1
合計	6

2. 提出された意見の内容及び市の考え方

NO	意見の対象箇所	意見の内容	意見数	市の考え方(回答)
1	基本目標	<p>「地域の活力・魅力を育てる体験型施設人口減少に歯止めをかけるため、体験型の機能を強化し、「地域の稼ぐ力・地域を生かす力」となる施設を目指します。」とあるが、体験型機能を強化することがなぜ人口減少に歯止めをかけることに効果があるのか？</p> <p>体験型や滞在型施設の運用は各地でみられているが、実際移住等にまでつなげるには移住希望者の就業スタイルや家族等の理解等、越えなければならないハードルが相当ある。</p> <p>また、人口減少に歯止めをかけるのであれば生産年齢人口や今後の社会保障を支える人口である、子育て世代をどう呼び込むかに重点を置くべきであり、そもそもハコモノで人を呼び込むなどという考え自体、時代錯誤な策であり同時に小美玉市民への新たな税負担を課しかねない。</p> <p>真剣に人口減少に歯止めをかけようとするならば、今小美玉市に住んでいる子育て世帯への支援を県内のどの市町村よりも充実させ、市外への人口流出を押さえつつ、同時に特に18歳を機に就職、就学で転出する確率が高まる故、そこをどう居住してもらいながら新たな人口流入をはかるかに重点を置くべきであり、体験型施設などで人口減少に歯止めをかけることができるとは到底思えない。施策自体の根本的再考を要すると考える。</p>	1	<p>本基本計画(案)の基となる「小美玉市まちづくり構想」では、交流人口(「目的を持って小美玉市に訪れる人」)の拡大を目的の一つとしております。その目的を達成するため、「そ・ら・ら」において来街者と市民が長く滞在していただけるよう、本市の魅力を知る、体験することをコンセプトとし機能を強化いたします。</p> <p>ご意見のとおり子育て世代への支援の充実も必要ではありますが、一方で「そ・ら・ら」を拠点とした地域の魅力発信、交流促進の機能を入り口として、市全体の様々なハード・ソフト面を生かした魅力ある施策を展開し、若者の流出を食い止め、交流人口の拡大と新たな人口流入を呼びこむことに繋がると考えます。</p>
2	施設整備	<p>1.地域の生活の中に共存する体験型施設 全般的に賛成です。遊具の場所には屋根だけでも設置した方が良く考えます。雨の日に幼児達の楽しみが無くなってしまいますので。</p> <p>2.地域の活力・魅力を育てる体験型施設 酪農文化は旧美野里地区が盛んなので、それに関わる体験の場は四季健康館の敷地内へ新設すべきかと考える。チーズやハム・ソーセージづくりの体験を目当てに一般の方達が来場するとは思えない。数少ない市内の小・中学生の体験学習のみで終わってしまうと考える。</p> <p>3.広域から近隣まで様々な交流を促進する体験型施設 霞ヶ浦りんりんロードの追加・サイクリストのリフレッシュブース整備については賛成です。整備される事で来場者が増える事は間違いないと考えます。</p> <p>4.その他 辛口な意見となってしまいますが、「そ・ら・ら」は大規模な施設ではないので、市民にとっては幼児を遊ばせたり、土産物を買ったり、飲食も出来、時々イベントがあれば満足です。他の地域からの来訪者は茨城空港へ行ったついでの方達が殆どかと考えます。わざわざ来る客はサイクリング・バイクのツーリングついでにの少数客かと考えます。</p>	1	<p>屋根の設置については、施設内への日差しの確保と降雨時における利用者の利便性向上を目的とし、本基本計画(案)では「庇(ひさし)」の設置を検討しております。</p> <p>また、「そ・ら・ら」への酪農関係施設の新設については、市の「文化」などの「地域の魅力が再発見できる場所」という「そ・ら・ら」の設置目的から、「そ・ら・ら」は施設の導入にふさわしい場所であると考えます。</p> <p>なお、酪農関係施設については、民間事業者の参入を計画しておりますが、導入について今後も引き続き慎重に検討して参ります。</p>

3	計画全体	<p>やはり、中長期的な観点から考えると、もう少し、考慮すべき、ファクターがあるのでは？ 今後、20年、30年先まで俯瞰した場合での、考慮すべきと思われるファクターをリストしてみると、</p> <p>●交通インフラ関係 1-1 つくばエクスプレスの延伸 1-2 成田と結ぶ、高速道路の完成 そして、これらに付随して当然考慮すべきと思われるのが、 1-3 茨城空港の、a. 成田空港の補完空港、b. 国内線乗り継ぎ空港、c. 貨物機の運航 1-4 成田空港とのシャトルバス運航 1-5 駐車スペース、空港自体、鉄道駅、シャトルバス向け、など</p> <p>●付随施設関係 2-1 空港ビルの拡張 2-2 鉄道駅関係 2-3 乗客増加に対応する施設、待合室、宿泊施設、駐車場、など 2-4 航空貨物取扱施設、通関関係、保管関係、関係者の為の施設、など 2-5 そ・ら・らと空港間を結ぶ、施設、シャトルバス、地下道、動く歩道、など</p> <p>●利用客以外の人の関係 3-1 空港や付随施設に勤務する人達の為の施設、宿泊施設、居住関係、駐車場、など 3-2 保安関係/行政関係 3-3 医療、保健関係</p> <p>●内陸部との関係 茨城県内、及び、周辺地域での、産業/工業団地など、少なくない地域での現在建設中の工業団地に加え、生産/物流活動が、更に展開される可能性が高い。現在も、トラック輸送が、運転手不足や、交通渋滞などのネックを抱えて来ている状況下では、QCD を考えると、その中でも、重量物ではなく、電子製品などの軽量且つ高単価のものは、航空貨物需要が大きく、それ程遠くない将来に、そのデマンドが急速に高まると予想される。 これらの観点からの、考察がなされた上での、計画策定が、望ましいと考えます。</p>	1	<p>ご意見いただいた内容は、空港エリア全体の中・長期的なビジョンと認識し、本基本計画(案)のみならず、「小美玉市まちづくり構想」全体のビジョンとして、ご意見を今後の計画づくりの参考にさせていただきます。</p>
4	施設整備	<p>意見内容 拡張工事完了が2020年代後半であると想像し、コメントさせていただきます。 飛行機展示は費用対効果の点から、飛行機ではなく遊具等其他の方法でも広場の活用を検討することですが、飛行機展示における機体購入設置費が450百万円、最大で650百万となる(p80)のは、YS-11を想定しているためかと思いましたが。百里基地第3飛行隊が運用しているF-2戦闘機は、2030年代に退役が予定されています。 退役後に防衛省からF-2を貸借する事を検討してみたいかでしょうか。 F-2は、YS-11よりも全長が10m、全幅が20mほど短く小型です。輸送のための解体・組立がYS-11と比較し、簡易で済むと予想されます。また百里基地・茨城空港から運べるため陸送も数km程度で済み、今回示された概算事業費よりも、設置関連費用が少額に抑えられるのではないかと思います。加えて、機体の一部(コックピット)を施設屋内に設置すれば、試乗体験スポットとして、広場の機体とセットで人気が出るのではないかと思います。 最近では、F-4戦闘機退役の際、他基地から築城基地までF-4を空送し、5km先のメタセの社まで陸送して設置・展示した例があります。コックピットの展示に関しては、F-4機体の一部を改造し、岐阜自衛隊広報センターで展示している例もありますので、事業費の概算は出しやすいかと思います。維持管理も含め費用対効果を検討し、可能であると判断できれば、将来の戦闘機展示スペースを想定した場所としてのおおぞら広場を、基本計画に組み入れることは出来ないでしょうか。 F-2の最終運用基地が百里基地になるとは限りませんが、小美玉の空を飛んでいたF-2がそ・ら・らに展示されれば、「百里基地並びに茨城空港と共存しながら・・・」という計画コンセプト(p15)にもあうかと思えます。まちづくり構想事業の完成時期・F-2の退役時期がどのようなタイミングになるかは分かりませんが、F-2の展示及びコックピットの展示をご検討いただければ幸いです。</p>	1	<p>航空機の広場への導入については、空港エリアの導入部分としてのゲート性を強化し、ここにしかない市の魅力を生み出すことを目的とし設置を検討しました。しかしながら、「小美玉市まちづくり構想」に記載されている「YS-11」の設置について、貸与の場合は内装の変更や内部の利用ができないことから導入を見送る予定です。 今後は代替機の選定等を進める予定ですが、ご意見いただいたF-2戦闘機の導入について、既に近隣施設である空港公園広場にF-4ファントムが導入されていることから、「そ・ら・ら」内の設置も含め、導入について慎重に検討すべきと考えます。</p>

5	施設運用	<p>・拡張 大きなイベント(例オールドカーetc)では、かなりの人手があるが、毎週末等に開催されているイベントではどのくらいの集客があるのか。 拡張後の企画、運営はどのように行うのかに期待しています。</p> <p>・現状の「声」 「そ・ら・ら」はわざわざ行く場所ではない。ついでに行く場所にもなっていない。</p>	1	<p>今後の「そ・ら・ら」の運営については、指定管理者制度を活用し民間事業者が運営する制度への移行を予定しております。</p>
6	計画全体	<p>チーズ、ハム・ソーセージが小美玉らしさと感じる市民はほとんどいないだろう。もちろん乳牛や食肉の飼育農家もあるだろうが、残念ながら高原ブランドのイメージにはかなわない。BBQは、ここでやるより自然豊かな山や川でやりたい。</p> <p>よそのまねをするのではなく、とんがったオンリーワンでなければ集客は望めない。施設を建設しても、数年間はどこかが入ってくれるかもしれないが、5年後には撤退して空きテナント化し廃墟同然になってしまうイメージしか沸かない。ネガティブな発想で申し訳ないが、多分正しいと確信している。他人事で外部コンサル任せで考え抜いていないからそうになってしまう。やることに目的の公共事業の典型的失敗事例となる確率が非常に高い。</p> <p>では小美玉らしさ、空港隣接施設らしさとは何か。にら、卵、れんこん、を強烈にプレずに主張することだと考える。熊本にはふわふわオムレツだけで週末大混雑の施設があった。おむすびだけで遠方から行列ができるお店もテレビを見た。万人受けする当たり障りのないコンサル提案は採用するべきでない。また台湾や上海に就航していたことから、BBQではなく火鍋施設を提案する。茨城で火鍋を楽しむ場所は非常に少ない。中華圏では冬よりも暑い夏こそ火鍋の季節である。その文化を強力にアピールすれば通年での集客も見込める。鍋だけに具材は地元特産品を多用することも可能。</p> <p>ともかくコンサル任せで誰も責任を取らないことから脱却し、チャレンジングなことをやっていかなければ発展はない。勇気を持った見直しを期待します。</p>	1	<p>「小美玉らしさ」について、小美玉市の特色である酪農や農業といった一次産業に係る体験の場の充実とヨーグルトに続く新たな特産品を「そ・ら・ら」において販売することを本基本計画(案)のメニューの一つとして取り入れています。</p> <p>今後、体験の場の充実と新たな特産品の開発・販売をとし、来街者や住民の方々に小美玉市の特色を更にアピールし、産業の振興につなげたいと考えます。</p> <p>なお、いただいたご意見については、今後も引き続き「小美玉らしさ」について考えを深め、今後検討するソフト面の取組みにおいて参考にさせていただきます。</p>
合計			6	